

## 幼稚園から小学校生活への接続の実態に関する 保護者調査からの検討

A Study on the Connection between Kindergarten and Elementary School  
Life through a Survey of Parents in a Kindergarten

見 上 昌 睦

Masamutsu KENJO

福岡教育大学特別支援  
教育研究ユニット

福 井 寿 子

Hisako FUKUI

福岡教育大学附属幼稚園

中 村 春 美

Harumi NAKAMURA

福岡教育大学附属幼稚園

井 手 正 弘

Masahiro IDE

福岡教育大学附属幼稚園

(令和4年9月30日受付, 令和4年12月20日受理)

### 抄録

本研究では、幼稚園から小学校生活への接続（移行）の実態について、北部九州の教員養成大学附属幼稚園1園の2015～2018年度卒園生56名（大部分の卒園生は居住地の公立小学校に入学）の保護者55名を対象とし、各々小学校1年1月の時期の質問紙調査を通して検討した。小学校生活の円滑な開始について、①学習面、②生活面、③人とのかかわり・社会性の面から選択及び記述回答を求めた。学習面では幼小の円滑な接続がうかがえ、園の「自ら考えて遊んだり製作したりしたこと」が有用であったという記述回答もみられた。生活面では「給食」が課題として挙げられたが、園の食育指導の成果もうかがえた。人とのかかわり・社会性においては言葉による伝え合いを始め、園の取組の成果もうかがえた。「友達づくり」「大規模校への就学」では小学校への引継ぎを始め個に応じて配慮を要する。今後も幼小接続の在り方について、発達に課題のうかがえる子どもに対する教育的支援も含めて検討していく必要がある。

### 1. はじめに

幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の在り方<sup>1-4 他)</sup>については、教員養成大学・学部等附属幼稚園<sup>5-9)</sup>においても重要な課題である。本研究においては、幼稚園と小学校の教育課程の接続について検討する前段階として、幼稚園から小学校生活への接続（移行）の実態について保護者調査を通して把握したいと考えた。

幼小接続期の子どもの実態に関して、小学校1年生の保護者を対象とした調査報告については、ベネッセ教育総合研究所(2016)<sup>10)</sup>の2015

年3月実施の子どもの「生活習慣」「文字・数・思考」「学びに向かう力」等の調査、国立教育政策研究所(2017)<sup>11)</sup>の2016年7月実施の子どもの育ち・学びを支える力に関する調査などが挙げられる。これらの調査は、子どもが小学校1年の7月<sup>11)</sup>、3月<sup>10)</sup>に各々実施されている。幼稚園から小学校生活への接続については、小学校入学初期(4月～6月頃)の「スタートカリキュラム」<sup>4,6-9)</sup>の主な実施時期だけでなく、小学校1年の二学期以降の経過も併せてみていくと、小学校生活により見通しをもて、修了(卒園)を控えた

三学期の保育と保護者支援にも一層生かしていけるのではないかと考えた。また、お茶の水女子大学附属幼稚園・附属小学校（小玉，2017）<sup>5)</sup>では、子どもが小学校1年の2012年11月実施の接続期の保護者の教育期待について報告されている。

さて、本研究で対象とする北部九州のA教員養成大学附属幼稚園（以下、本園）と同大学附属小学校3校はいずれも遠距離にあり、大部分の卒園生は居住地の公立小学校に入学している。そのため、幼小接続に際しての本園の教育内容・教育課程について、就学後の生活の経過・状況の実態と併せて検討することは地域のモデル園の面からも意義がある。

以上を踏まえ、本研究では、第1著者が本園園長を兼務していた2016～2019年度に、卒園生の保護者を対象とした小学校1年の1月の時期の質問紙調査を通して、幼稚園から小学校生活（第1学年）への接続（移行）の実態について検討した。

## 2. 本園の概要

本園の教育目標は、豊かな心をもち、自己を十分に発揮し、心身の調和のとれた発達と生きる力の基礎を身に付けた幼児の育成である。めざす幼児像については、基本的生活習慣を身に付けた幼児、思いやりのある幼児、最後まで頑張る幼児、表現力のある幼児、創造力の豊かな幼児、探究心や思考力の豊かな幼児である。幼稚園教育要領<sup>2)</sup>に則した子どもの主体性を大切にする保育が行われている。定員は90名（3歳児20名・4歳児35名・5歳児35名）であり、1学年あたり担任1名、保育補助1名で、養護教諭1名を配置している。

大学のキャンパス内に位置し、四季折々に変化する豊かな自然に恵まれており、園児が伸び伸びと活動する空間を有している<sup>12)</sup>。このような環境を生かして、園児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開できるような保育が日々行われている。

本園の研究テーマについては、2016～2018年度は「身近な自然と豊かにかかわる幼児を育てる」<sup>13-15)</sup>、2019年度からは「幼児期の環境教育を深める」<sup>16,17)</sup>であった。特色あるカリキュラムは、上記研究成果を踏まえた「身近な自然環境との関わり」に加え、2012～2015年度の研究テーマで、その後も研究を継続している「言葉で人とつながり合う幼児を育てる」<sup>18)</sup>である。主に降園前の「あつまりの場」での振り返り活動「ききましよう・おはなししましよう」における幼児間の言葉を介したやりとりであり、聴くことを大切にした

言葉による伝え合いの取組である。

本園では、2016～2018年度に一定数の卒園生が入学する地域の公立B小学校5年生との交流<sup>註1)</sup>の回数を2回（三学期の別日に給食見学1回）に増やした（園児は順調に交流）。また、養護教諭により食育〔ちゃれんじ食材（月1回食材を指定し家庭で自由に調理した物を1品弁当に入れてくるという2016年度三学期からの取組）（広島大学附属幼稚園の取組<sup>19)</sup>も参照）〕<sup>13,16)</sup>や栄養、小学校（地域の公立小学校、附属小学校）の「給食」紹介等の指導が実施されている。さらに、2016～2019年度の2月には年長の保護者と卒園生（小学校1年）の保護者との交流会<sup>註2)</sup>が開催された。

## 3. 方法

### 3. 1 対象者

2017～2020年の各1月中旬に本園の前年度卒園生の保護者に郵送法により質問紙を依頼し、同年1月末までに、2015年度卒園生15名（回収率62.5%）、2016年度卒園生18名（回収率54.5%）、2017年度卒園生12名（回収率85.7%）、2018年度卒園生11名（回収率64.7%）、総計56名の保護者（55世帯）から回答を得た。

### 3. 2 調査内容

幼稚園から小学校生活への円滑な接続という観点で、文部科学省（2010）<sup>1)</sup>等を参照（資料）して設定した以下の質問項目を用いた。

1) 小学校生活が円滑に始められたかについて、学習面、生活面、人とのかわり・社会性の3面（資料に例示）から5件法（図1～図3の凡例）で選択回答を求め、その理由について記述回答を求めた。

2) 小学校入学後の学習面、生活面、人とのかわり・社会性の3面について、本園の教育で役に立った、良かったと思われる事項がある場合、記述回答を求めた。

3) 小学校への円滑な接続という点で、本園に望むことがある場合、記述回答を求めた。

4) 上記1)～3)の記述回答の各事項については、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」<sup>2,3)</sup>の該当する姿に分類し（分類可能なもののみ）数字を付した（①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現）。

## 4. 結果

### 4. 1 小学校生活への接続

小学校生活が円滑に始められたかについての選択回答の結果は、図1～図3の通りであった。記

述回答については、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」<sup>2,3)</sup>の該当する姿に分類し（分類可能なもののみ）、数字を付した。

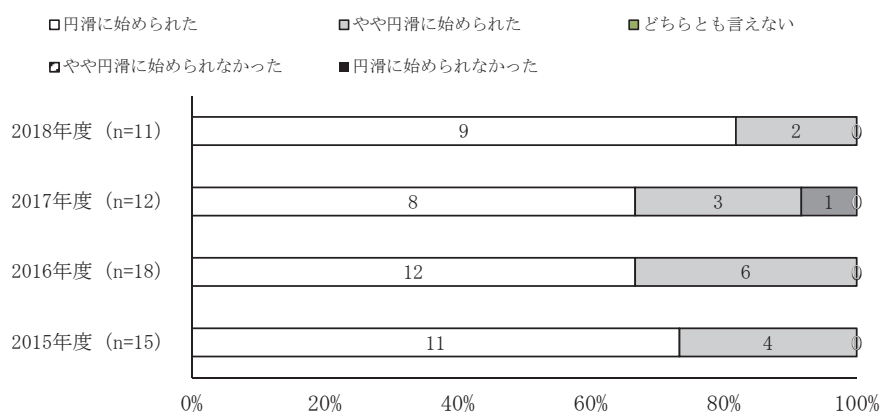


図1 学習面の接続  
「やや円滑に始められなかった」0, 「円滑に始められなかった」0

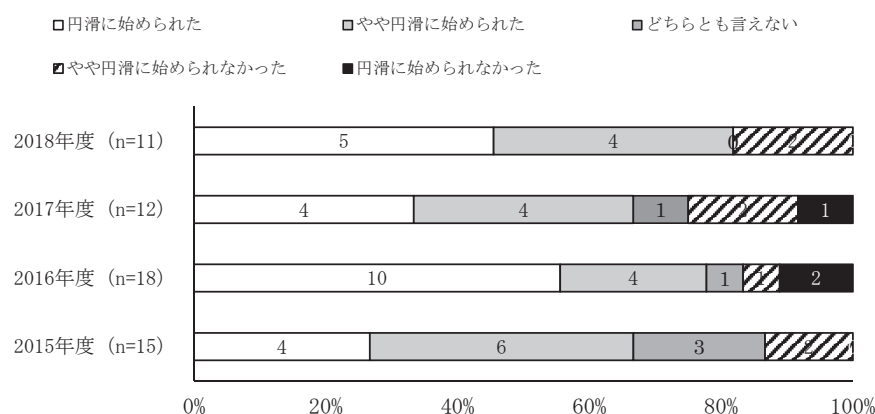


図2 生活面の接続  
「円滑に始められなかった」2015・2018年度0

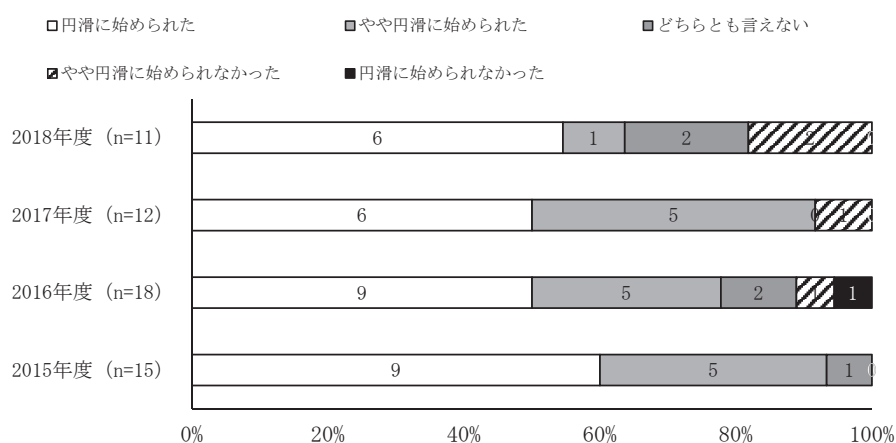


図3 人とのかかわり・社会性の接続  
「やや円滑に始められなかった」2015年度0, 「円滑に始められなかった」2015・2017・2018年度0

#### 4. 1. 1 学習面の接続

園の生活で有用だったことについて、「自ら考えて遊んだり製作したりしたこと」(⑥⑧⑩)を6名(2015・2018年度)・7名(2016・2017年度)が記述した。

「(自然など)生活科に関連する遊びを経験していたこと」(⑥⑦⑩)3名(2017年度)・4名(2018年度),「図画工作で工夫して(伸び伸び)表現している」(⑥⑦⑧⑩)3名(2017年度)・4名(2018年度),「絵本に触れる機会が多かった」(⑥⑧⑩)1名(2016年度)・2名(2017年度),「人の話を集中して聞く姿勢が育まれた」(⑤⑨)3名(2017年度)・5名(2018年度),「遊びの中で文字に興味をもたせてもらえた」(⑥⑧)2名(2016年度)という記述もみられた。

「どちらとも言えない」と回答した1名(2017年度)については、「平仮名が読めない。『皆は読めるのに自分はわからない』と宿題に積極的でない時期があった。算数の文章題で苦労した」(⑧)と記述していた。

#### 4. 1. 2 生活面の接続

園の生活で有用だったことについては、「基本的な生活習慣」(①②)2名(2017年度)・6名(2018年度),「生活リズムが身に付いた」(①)4名(2016年度),「園の生活リズムがそのまま小学校の生活リズムに繋がった」(①)1名(2015・2016年度),「毎日決まった時間に『起きる,寝る』という幼稚園中心のリズムを守った生活をしていたので『小学校中心』の生活を無理なく送れている」(①)1名(2016年度)等の記述があった。

「持ち物の整理整頓が身に付いた」(②④)4名(2016年度),「掃除の時間」(②④)3名(2017年度),「食育(ちゃれんじ食材)<sup>11,14)</sup>, 栄養, 給食指導」(①)3名(2017・2018年度)の記述があった。

「学年に応じて自分でできることをやらせてくれた」(②)1名(2015年度),「園児に応じてゆっくりじっくりかかわるなど土台づくりをしてもらえた」(①)1名(2016年度),「自分でどうすればよいか考えることができるようになってきた」(②)1名(2017年度)・3名(2018年度)という記述もみられた。

「円滑に始められなかった」「やや円滑に始められなかった」理由として,「給食(量と時間,内容)に慣れるまで時間がかかった」(①)について1名(2015年度)・4名(2016年度)・3名

(2017年度)・3名(2018年度)が記述した。小学校生活には「10月頃によく慣れ,それからは少し苦手な食材でも1口は食べるなど家庭でも頑張っている」(①)1名(2015年度),「園が弁当だったので給食,特に牛乳に慣れるのに数か月かかった」(①)1名(2016年度),「担任教師の配慮(量を減らしたり残したりさせてもらえる)があったり,園の食育指導を思い出したりして慣れてきた」(①)1名(2017年度)と記述していた。

給食以外の面では,「学校に慣れるまでは行き渋りもあり朝の準備や家庭での食事などスムーズにいかなかった。10月頃によく慣れた」(①②)1名(2015年度),「たくさんの人に面食らってなかなか皆と同じスピードでやることができなかったが,三学期になりかなり慣れた」(⑤)1名(2015年度),「遠方の小学校のため朝が早く,親子共に苦労した。入学後に担任に『持ち物の管理がうまくできない』と指摘されたが本園と家庭で生活面はきちんとしてきているという自信があったので温かく見守ってきた。二学期の保護者会では『進んで授業後の片付け,掃除ができる』とほめられた」(①②)1名(2016年度)という記述があった。

「持ち物の管理や帰りの支度に時間がかかったり手順がわからなかったりした」(②)1名(2017年度),「平仮名読みに苦労して翌日の時間割を見てもよくわからない様子であった」(②⑧)1名(2017年度)という記述もあった。

「遊ぶ時間の少なさ」(①),「登下校に慣れるまでに時間がかかった」(②),「時間割を見て自ら準備すること」(②)各2名(2018年度)という記述もあった。

#### 4. 1. 3 人とのかかわり・社会性の接続

園の生活で有用だったことについて,「言葉によるやりとり」(⑨)について4名(2015年度)・5名(2016年度),「(異年齢を含む)友達や人との関わり(思いやりや協力)」(③④)について10名(2015年度)・8名(2016年度)・5名(2017年度)・6名(2018年度),「挨拶」(④⑤)3名(2017年度)・2名(2018年度),「自分の考えや気持ちを伝える」(⑨)1名(2017年度)・2名(2018年度),「ルールを守る」(④)1名(2017・2018年度)等の記述があった。

また,「集団での行動や生活」(③④)1名(2018年度),「行事等の司会やリーダーの経験」(④⑨)1名(2018年度)等の記述がみられた。

「やや円滑に始められなかった」「円滑に始められなかった」理由として、「二学期くらいまで人との関わりで苦労したが、本園の『言葉で人とつながり合う幼児を育てる』という保育を受けていたし時間はかかるが大丈夫と思っていた」(⑨) 1名(2016年度)、「教師から強い口調で指示を出されたり、大きな声で叱られたりすることを怖れていた」(①) 1名(2017年度)、「教師によって子どもへの接し方が異なることに戸惑っていた」(①) 1名(2017年度)、「38人の学級で友達と呼べるようになる前はトラブルも経験した」(④) 1名(2018年度)、「お世話をする6年生と一緒にいることが多く、クラスの友達と馴染むのに時間がかかったようであった」(③) 1名(2018年度)、「同じ(他の)幼稚園同士の友達の輪に入っていく勇気がなかなか出ずにいたようであった」(③) 1名(2018年度)と記述していた。

「どちらとも言えない」と回答した中の1名(2018年度)については、「入学して3か月くらいはなかなか友達ができなかったようで、自分から声を掛けることができずに休み時間も独りで遊んでいたようであった」(③)と記述していた。

#### 4. 1. 4 学習面の接続、生活面の接続、人とのかかわり・社会性の接続、各間の相関関係

学習面の接続、生活面の接続、人とのかかわり・社会性の接続各間の Spearman の順位相関係数については、①学習面の接続と生活面の接続間で0.404(2015年度)・0.025(2016年度)・0.000(2017年度)・0.482(2018年度)、②学習面の接続と人とのかかわり・社会性の接続間で0.223(2015年度)・0.111(2016年度)・0.175(2017年度)・0.736(2018年度)、③生活面の接続と人とのかかわり・社会性の接続間で0.236(2015年度)・0.541(2016年度)・0.594(2017年度)・0.258(2018年度)であった。

#### 4. 2 小学校への円滑な接続という点で本園の教育に望むこと(良かったこと)

「(恵まれた環境の中、穏やかで伸び伸びと安心して過ごせる)いまのままでよい」(①⑦) 4名(2017年度)・5名(2018年度)、「変わらぬ教育をお願いしたい」1名(2015年度)、「本園が3年間でいっぱい遊び、無理強いはいしない、自分の気持ちを認めてもらえる場であったこと」(①) 1名(2015年度)、「幼稚園で身体をしっかりと動かし遊び込むことができて現在の学校生活を送れている」(①) 1名(2016年度)という記述がみら

れた。

食事面について、「弁当では皆で同じ物を食べる機会があるとよい」(①) 4名(2016年度)、「弁当の工夫(牛乳をとり入れる等)」(①) 1名(2018年度)という記述があった。

集団での活動について、「集団での活動の経験がもう少しあるとよい」(③) 2名(2018年度)、「本園が子どもを尊重した教育、広い園庭での遊び、皆で協力して何かを成し遂げることがあったこと」(②③) 1名(2015年度)、「小学校では集団の色が強くなるので、皆で一緒に何かをする機会がもう少しあるとよい」(③) 1名(2016年度)、「集団での運動遊びの経験がもう少しあるとよい」(①③) 1名(2017年度)という記述がみられた。また、「小学校見学」1名(2015・2016・2017・2018年度)(⑤)、「他園との交流」(⑤) 1名(2017年度)について記述がみられた。

その他、「制服や体操服等があれば自分で脱いでたたむ等もう少しできていたのでは」(②) 1名(2015年度)、「1日の生活の中で、もう少し机の前に座って集中して何かをする時間がとれるといいのでは」1名(2015年度)、「鉄棒、なわ跳び、跳び箱の練習」(①) 1名(2017年度)という記述があった。

「園から見て、小学校入学後につまずく可能性がある点を卒園前に保護者に伝えてほしい」1名(2016年度)、「小学校教員の経験のある園の教員に相談できる機会があるとよい」1名(2016年度)という記述もみられた。

2017年度に学習面で「どちらとも言えない」と回答した1名については、「平仮名の読み」(⑧)に関して「平仮名の読みは大切と思ったが、家庭での関わり方で対応できる面もある」と記述していた。

#### 5. 考察

本研究では、小学校生活への接続(移行)の実態について、北部九州の教員養成大学附属幼稚園1園(大部分の卒園生が居住地域の公立小学校に入学)の2015～2018年度卒園生総計56名の保護者を対象とし、小学校1年1月の時期に質問紙調査を実施した。そして、対象の卒園生の幼小接続の実態について、学習面、生活面、人とのかかわり・社会性の3つの面から、また小学校生活への円滑な接続という点で本園に望むこと、さらに本園の教育内容・教育課程との関連について考察を行った。

## 5. 1 幼稚園から小学校生活への接続の実態

### 5. 1. 1 学習面の接続

学習面については、幼稚園から小学校生活への良好な接続がうかがえた。記述回答「自ら考えて遊んだり製作したりすること」にもみられるように、遊びを通して「表現力」や「創造力」を身に付けさせ、「豊かな探求心や思考力」を育成するという本園の教育目標が達成され、小学校への円滑な接続に繋がったと考えられる。2016年度より身近な自然や環境という小学校生活科との関連の高い内容<sup>13-16)</sup>に力を入れてきたことも寄与していることがうかがえた。

「仮名文字の読み」について、幼児期の文字への興味や習得には個人差があり、小学校入学後に追いつく子どもも一定数いる（内田、2002）<sup>20)</sup>ということも十分認識する必要がある。併せて、発達性読み書き障害等の可能性についても考慮し、個に応じた配慮・支援も大切になる。

### 5. 1. 2 生活面の接続

生活面の接続については、円滑な接続が3分の2、残る3分の1はどちらとも言えない、やや円滑に始められなかったという結果であった。園の生活で有用だったこととして、「自分でどうすればよいか考えることができるようになってきた」という記述回答から、生活面においても自ら考えるという「生きる力の基礎」が身に付いてきていることもうかがえた。生活面では「給食」が大きな課題として挙げられたが、2016年度からの本園の食育指導の成果<sup>13,16)</sup>もうかがえた。発達障害のある子どもの感覚過敏等に起因する偏食等の食の困難とその支援については課題とされる（田部・高橋、2019）<sup>21)</sup>。本調査結果から、生活面全般については、二学期から三学期と時間がかかった子どももみられたが、本調査回答時には小学校生活に慣れてきたことがうかがえた。

### 5. 1. 3 人とのかかわり・社会性の接続

人とのかかわり・社会性の接続については、主に振り返り活動時の聴くことを大切にした言葉による伝え合い（「ききましよう・おはなししましよう」）<sup>13,16,18)</sup>を始め、本園の継続した取組の成果もうかがえた。一方で円滑に始められなかった子どももあり、特に、「友達づくり」「大規模校への就学」等では配慮を要する。人とのかかわり・社会性を始め発達に課題がうかがえる子どもについては、小規模特認校制度の教育的意義（久保、2015）<sup>22)</sup>等も考慮した就学相談も大切になろう。

人とのかかわり・社会性については、保育・教育場面で意識してとり上げていくことが大切であると思われる。ベネッセ教育総合研究所（2016）<sup>10)</sup>では、幼児期から小学校にかけて、子どもの社会性、協調性スキルがいったん低下することも示されている。本園卒園生については、「言葉によるやりとり」「友達や人との関わり」等、人とのかかわり・社会性の接続が円滑であることがうかがえ、このことは本園の教育の成果であり、特色ではないかと考えられた。

### 5. 1. 4 学習面、生活面、人とのかかわり・社会性の接続各間の相関関係

生活面、人とのかかわり・社会性については、毎年度一定の相関がみられたが、円滑に始められなかった子どもについては、就学相談も含めて、個別の対応や小学校への引継ぎについても一層考慮していく必要がある。年度によっては相関のみられた学習面も併せ、3つの側面を総合的に育んでいくという視点も大切である。ベネッセ教育総合研究所（2016）<sup>10)</sup>では、「生活習慣」の自立が「学びに向かう力」や「文字・数・思考」に関与していることが示されている。幼児教育の5領域<sup>2,3)</sup>、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」<sup>2,3)</sup>を含め、子どもたちの生きる力の基礎について、家庭や地域の小学校等と連携し総合的に育むことを大切にしていける必要がある。

### 5. 1. 5 円滑な小学校生活への接続という点での園への要望

円滑な小学校生活への接続という点での本園への要望については、「園の環境を生かす形での変わらぬ教育をお願いしたい」という回答が最も多かった。お茶の水女子大学附属幼稚園・附属小学校（小玉、2017）<sup>5)</sup>では、小学校への期待として「子どもがやりたいと思う気持ちを尊重する」が高く、本園保護者とも共通していることがうかがえた。本研究では、保護者の要望が個々で異なる傾向もみられた。今後は保護者面談等を通して、個々のニーズについても考慮しながら、卒園生の保護者の他、小学校の経験のある園の教員や附属小学校の活用についても一層考えていく必要があるだろう。

## 5. 2 教育内容・教育課程との関連

円滑な小学校生活への接続という点での本園の教育内容・教育課程との関連について、記述回答から幼児期の終わりまでに育ってほしい「10

の姿」<sup>2,3)</sup> に関係する有用な園の取組についてもうかがえた。特に本園では、実践研究を通して、「言葉による伝え合い」<sup>13,16,18)</sup>、「自然」や「環境」との関わり<sup>13-17)</sup>については、教育課程に位置付けており<sup>13,23)</sup>、その成果もうかがえた。今後は生活科を始め、小学校の教育課程<sup>4-9)</sup>との接続についても詳しく検討していく必要がある。

2016年度以降に導入したり重きを置いたりした教育内容・教育課程に関して、学習面の接続における「自然」や「環境」との関わり、生活面の接続における食育指導、人とかかわり・社会性の接続における地域の小学校との交流の成果についてもうかがえた。

### 5. 3 今後の課題

本研究の今後の課題について以下に述べる。今後も幼稚園から小学校生活への接続に関する調査を継続していくとともに、他園から就学した子どもの保護者も調査対象とし、本園の教育内容・教育課程の小学校生活への影響について比較検討する必要がある。また、小学校教員を対象に本園卒園生に対する意識調査を行い、有用な教育内容・教育課程や工夫等についてより複合的に明らかにする必要もある。喫緊の課題として、新型コロナウイルス感染症流行下<sup>24)</sup>における本園の教育内容・教育課程の検討<sup>25)</sup>、及び小学校生活への接続の実態についても検討を要する。さらに、幼児期から就学期にかけての発達障害またはその疑いのある子ども(「気になる子」「育てにくい子」とも表記<sup>26,27 他)</sup>)の幼小接続期の教育的支援・調査を始め保育・教育実践の集積も必要とされる。

### 付記

本研究は一部、2019・2020年度福岡教育大学「新たな幼稚園教諭の教職課程編成・開発推進プロジェクト」による。

本調査にご協力いただいた本園卒園生の保護者の皆様、2016～2019年度本園職員の皆様、園の研究に指導・講評いただいた福岡教育大学学校教育研究ユニットの船越美穂教授に深謝いたします。

### 註

- 1) B小学校との交流については、同小学校区の他の幼稚園・保育所・認定こども園との公平性が考慮され、2019年度より実施されなくなった。
- 2) この交流会の前の時間には、小学校生活への

接続に関する年度ごとの卒園生の保護者調査(本研究)の報告、養護教諭や大学教員による幼小接続に関する講話〔幼稚園と小学校との違い、小学校の給食(献立や量、時間)等〕も行われている。

### 文献

- 1) 文部科学省(2010) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議報告書。
- 2) 文部科学省(2017) 幼稚園教育要領。
- 3) 文部科学省(2018) 幼稚園教育要領解説。フレール館。
- 4) 文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター(編著)(2018) 発達や学びをつなぐスタートカリキュラム ―スタートカリキュラム導入・実践の手引き。学事出版。
- 5) 小玉亮子(編著)(2017) 幼小接続期の家族・園・学校。東洋館出版社。
- 6) 神戸大学発達科学部附属幼稚園・明石小・中学校研究会(1996) 総合・探求学習と新カリキュラム構想 ～幼稚園・小学校・中学校の連携研究から～。東洋館出版社。
- 7) 東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎、東京学芸大学附属竹早小学校、東京学芸大学附属竹早中学校(編著)(2018) 子どもが輝く ―幼小中連携の教育が教えてくれたこと―。東洋館出版社。
- 8) 三浦光哉(編著)(2017) 5歳アプローチカリキュラムと小1スタートカリキュラム ～小1プロブレムを予防する保幼小の接続カリキュラム～。ジアース教育新社。
- 9) 木下光二(2019) 遊びと学びをつなぐこれからの保幼小接続カリキュラム 事例でわかるアプローチ&スタートカリキュラム。チャイルド本社。
- 10) ベネッセ教育総合研究所(2016) 幼児期から小学1年生の家庭教育調査・縦断調査。
- 11) 国立教育政策研究所(2017) 幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究〈報告書〉
- 12) 文部科学省学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議(2018) これからの幼稚園施設の在り方について ～幼児教育の場にふさわしい環境づくりを目指して～。
- 13) 福岡教育大学教育学部・附属学校共同研究部 幼児教育研究部会、附属幼稚園(2018) 平成30年度研究紀要第25号「身近な自然と豊かに

- かかわる力を育む ～年間計画の作成～」。
- 14) 福岡教育大学附属幼稚園 (2019) 身近な自然と豊かに関わる力を育む。幼児教育じほう, 46 (12), 30-31.
- 15) 福岡教育大学附属幼稚園 (2019) プロジェクトの充実に向けた環境の構成の工夫 ～4歳児から5歳児にかけての土プロジェクトの取組から～. 令和元年度第65回幼稚園教育研究集会神戸大会要項, 26-27.
- 16) 福岡教育大学教育学部・附属学校共同研究部幼児教育研究部会, 附属幼稚園 (2019) 令和元年度研究紀要第26号「幼児期の環境教育を探る ～生活との関わりやつながり～」。
- 17) 福岡教育大学附属幼稚園 (2020) 幼児期における環境教育を探る. 全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会 国立大学附属幼稚園からの提案 15 遊びを充実させる環境構成の工夫, 10.
- 18) 福岡教育大学教育学部・附属学校共同研究部幼児教育研究部会, 附属幼稚園 (2016) 平成27年度研究紀要第22号「言葉で人とつながり合う幼児を育てる」。
- 19) 小鴨治鈴, 堀奈美, 関口道彦, 金岡美幸, 今川真治, 松原主典, 福田明子 (2015) 幼稚園のお弁当を通じた食育プログラム ―保護者の食に対する意識の変容に着目して―. 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 43, 43-51.
- 20) 内田伸子 (2002) 読み書き能力の獲得 ―一次のことばから二次のことばへ―. 内田伸子 (編著) 新訂乳幼児心理学, 財団法人放送大学教育振興会, 147-161.
- 21) 田部絢子, 高橋智 (2019) 発達障害等の子どもの食の困難と発達支援. 風間書房.
- 22) 久保富三夫 (2015) 小規模特認校の教育的意義とその実現のための要件に関する研究. 人間科学部研究年報, 17, 32-46.
- 23) 福岡教育大学附属幼稚園 (2020) 教育課程・指導計画.
- 24) ベネッセ教育総合研究所 (2020) 幼児・小学生の生活に対する新型コロナウイルス感染症の影響調査 ―2020年5月実施―.
- 25) 福岡教育大学教育学部・附属学校共同研究部幼児教育研究部会, 附属幼稚園 (2021) 令和3年度研究紀要第27号「幼児期の環境教育を探る ～心地よい環境の構築を観点として～」。
- 26) 佐々木正美 (2008) 「育てにくい子」と感じたときに読む本 ―悩み多き年齢を上手に乗り越えるためのアドバイス. 主婦の友社.
- 27) 中川信子 (2020) 幼稚園・保育園のちょっと気になる子. ぶどう社.

資料 学習面, 生活面, 人とのかかわり・社会性の例〔文部科学省 (2010) <sup>1)</sup> 等参照〕

**学習面** (例): 学習への興味・関心・意欲・態度, 創意工夫等…描いたり, 書いたり, つくったりすることを楽しむ。数量や図形, 文字などに関心をもつ。意欲的に新しいことを吸収しようとする姿勢をもつ。生活科の学習に興味・関心・意欲をもって取り組む。授業中, 席について学習する。宿題にきちんと取り組む。

**生活面** (例): 基本的な生活習慣・整理整頓・食事等…早寝, 早起き, 朝食などの生活リズムを身に付ける。着替えや持ち物の整頓など身の回りのことを自分でしようとする。食べ物の好き嫌いをせず, 食事のマナーを守って食べる。時間内に給食を食べ終えることができる。

**人とのかかわり・社会性** (例): 教師や友達との関係づくり・規範意識等…あいさつや返事がしっかりできる。集団での行動や生活ができる。教師や友達の話をしっかりと聞くことができる。自分のしたいことや必要なことなどを言葉で伝えることができる。自分の思ったことや感じたこと, 考えたことを相手にわかるように話す。自分でできることは自分でしようとする。友達と一緒に楽しく遊べる。きまりや約束の大切さに気付き, 守ろうとする。交通ルールを知り, 安全に行動しようとする。